

電子式卓上計算機

Canon
キヤノン

MP1215-D **VI**

使用説明書

このたびは、キヤノーラMP1215-DVIをお買上げいただき、誠にありがとうございました。弊社が心をこめてつくりあげた当機は、必ずお客様のご満足をいただく働きをいたすことと確信しております。

この説明書は、“キヤノーラMP1215-DVIをより効果的にご使用いただくために”という目的をもってお手許にお届けしたものです。是非お読みください。

目次

1. 計算を始める前に	3
1.ご使用上の注意	3
2.操作部の説明	4
3.インクリボンの取り付け方	7
4.ロールペーパーの装填方法	9
5.小数点方式について	11
6.オーバーフローについて	14
2. 計算のしかた	15
1.加減算	15
〈アイテムカウント機能〉	17
〈アベレージ計算機能〉	20
〈ゼロプルーフ機能〉	22
〈ペアモード計算〉	24
2.乗算	28
3.除算	29
4.混合算	30
5.定数乗除算	31
6.自乗・累乗・逆数計算	33
7.メモリを使った計算	34
8.ノンアドキーを使った計算	35
9.応用計算	38
MP1215-DVIの仕様	40
保証内容	43

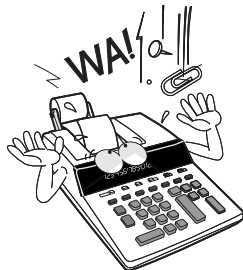
1. 計算を始める前に

1. ご使用上の注意

- 次の場所ではご使用にならないでください。
- 直射日光や暖房などによって高温になる場所。
- 温度変化の激しいところ
- 湿気、ごみ、ほこりの多いところ



- 鉄粉などの多いところ。
プリンタには磁石類を使用していますので、クリップなどの金属片を内部に落とすことのないようご注意ください。



- 本体が汚れたときには乾いた柔らかい布で汚れをふき取ってください。有機溶剤（シンナー、ベンジン）は絶対に使用しないでください。



- ロールペーパーが取り付けられていない状態では印字しないでください。



- 本機の上、特にプリンタの上には重いものを置かないでください。

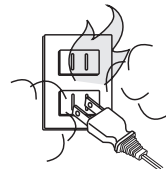


- 異常（例：発煙、異臭、異常な音など）が生じた場合には、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグが抜けるようにコンセントのまわりには物を置かないでください。また、電源プラグをコンセントから抜く際には本機の電源スイッチがオフになっていることをあらかじめご確認ください。
- ご使用後は必ずダストカバーをかけてください。



警告

電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。本機はコンセントから近い場所、アダプターを抜き差ししやすい場所でご使用ください。



2. 操作部の説明

〈外観〉



電源コード：接続コードを使用することにより、身近でコードのぬきさしができます。

〈キーおよびスイッチ〉

☐～☐置数キー

☐☐ ツーゼロキー：0を2桁続けて置数するときに使用します。

☐☐☐ スリーゼロキー：0を3桁続けて置数するときに使用します。

☐ 小数点キー：置数のとき数値の小数点位置で押します。小数点以下のみの数値を置数するときは☐キーを押すだけで、その前に☐キーを押す必要はありません。

☐+ 加算キー
☐- 減算キー
☐× 乗算キー
☐÷ 除算キー

} * 命令キー

☐第1コンスタントキー：定数乗除算を行うときに使用するロックキーです。乗算では被乗数が、除算では除数が定数になります。ロックキーは押しこむとロックされ、もう一度押すと解除されます。（P.31, 33, 38, 39参照）

☐第2コンスタントキー：乗算では乗数を、除算では除数を定数とする定数乗除算を行うときに使用するロックキーです。（P.32参照）

☐トータルイコールキー：演算結果を求めるときに使用します。

☒ サブ トータル イコール キー：加減算の中間計または乗除算の演算結果を求めるときに使用します。また検算をするときに検証キーとしても使用します。(P.22参照)

☒ クリア エントリー キー：置数ミスの訂正に使用します。

(例) 123 × 456 = 56088

123 **×** 756 **☒** 456 **☒** (56088)



(置数ミス)

ただし命令キー (**+** **-** **×** **÷**) を押した後で、**☒** キーを押しても命令キーを押す前に置数した数値はクリアされません。

☒ クリア キー：メモリを除くすべてのレジスタをクリアするときに使用します。(レジスタとは、記憶された数値のことです)

AM **アキュムレーション キー**：メモリへ数値または演算結果を自動累積させるときに使用するロックキーです。(P.34参照)

T **トータル リコール メモリ キー**：メモリの合計を呼び出して、同時にメモリレジスタをクリアするときに使用します。(P.34参照)

S **サブ トータル リコール メモリ キー**：メモリの中間計を呼び出すときに使用します。(P.34参照)

PRF **プルーフ キー**：検算を行う場合において、照合すべきアイテム数(伝票枚数)と合計をあらかじめ入力するときに使用します。(P.22参照)

**ノンアド キー**：任意の数値、日付、番号および小数点、あるいは演算結果を印字するときに使用します。

また演算途中における計算結果を呼び出す場合にも使用します。(P.35参照)



小数点スイッチ：乗除算における演算結果および加減算の置数の小数点位置を指定するスイッチです。指定位置は小数点以下0, 1, 2, 3, F(浮動小数点)の各桁と+ (アドモード)です。(P.11参照)



F (浮動小数点)

14桁以内の有効数字は全て印字、表示されます。

+アドモード

加減算の置数の小数点位置を、自動的に小数点以下2桁に指定します。**☒** キーを押す必要がなく、ドル計算などには便利です。



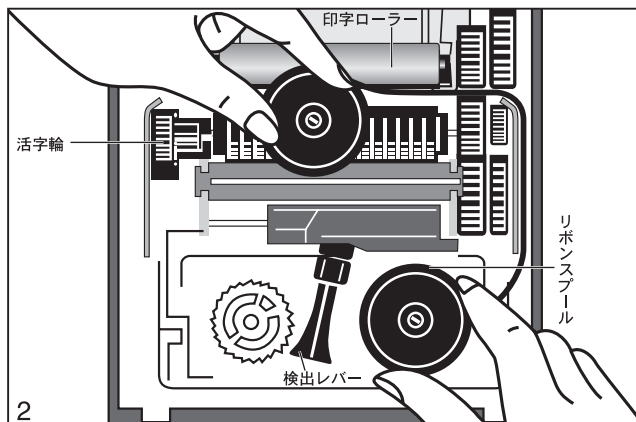
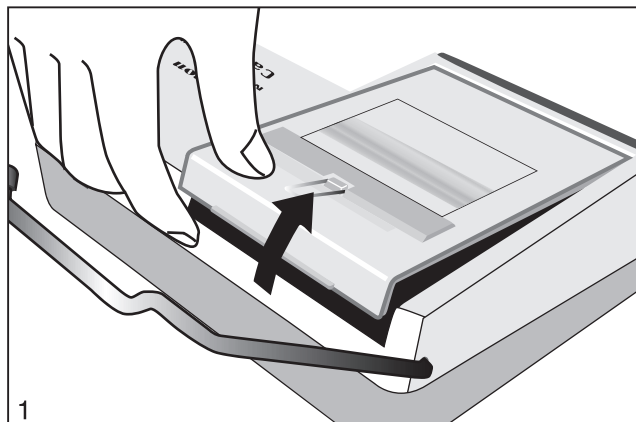
四捨五入スイッチ：乗除算の結果において指定した小数桁の次の桁を四捨五入 、または切り捨て  の指定をするときに使用するスイッチです。(P.11参照)

3. インクリボンの取り付け方

* 購入時には、インクリボンがすでにセットされています。

* インクリボン取り付けの際には、手や衣服が汚れる可能性がありますので、ご注意ください。

1. プリントカバー後方の突起を持ち上げてプリントカバーをはずします。(図1) 本体を押さえながらプリントカバーを取りはずしてください。
 2. インクリボンの黒側を上にし、検出レバーの向いている反対側の軸に一方のリボンスプールを差し込みます。リボンをガイドにかけて、活字輪と印字ローラーの間を通します。(図2)
 3. 検出レバーを2で差し込んだリボンスプール側に向け、もう一方のリボンスプールを差し込みます。(図3) リボンスプールを回転可能な方向に回し、リボンのたるみをなくします。(図4)
 4. プリントカバーの手前の突起を本体カバーにかけ、後部を押し下げてプリントカバーを取り付けます。
- 古いインクリボンをはずすときは、検出レバーを取り出そうとするリボンスプールと反対側に向けてリボンスプールを取り出します。
- * 鮮明な印字を続けるためには、インクリボンの交換をロールペーパー約5~8巻使用後あるいは6ヵ月毎に行ってください。



使用インクリボンについて

当社販売店では、キヤノータMP1215-DVI用のインクリボンとして、Canon Ink Ribbon EP102/M310を販売しておりますので、お買上げの販売店にて本品をご指定の上お求めください。

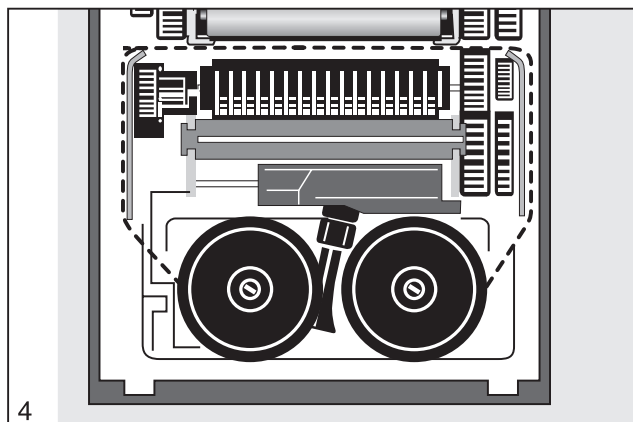
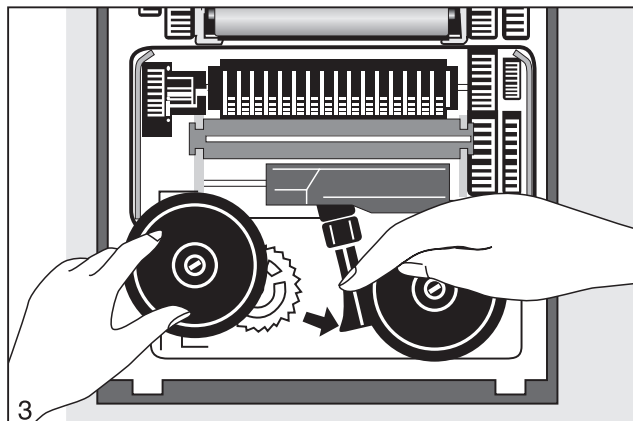
他のインクリボンを使用するときは、次の規格のものをお求めください。

規格外のものは、リボンが破損したり、印字が不鮮明になる恐れがありますのでご注意ください。

規格) 型式 : EP102/M310型

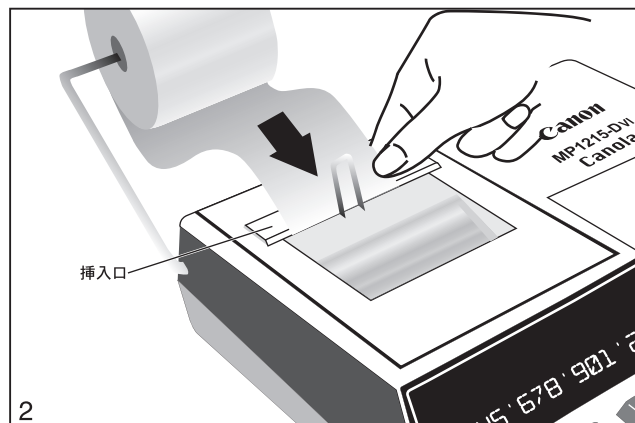
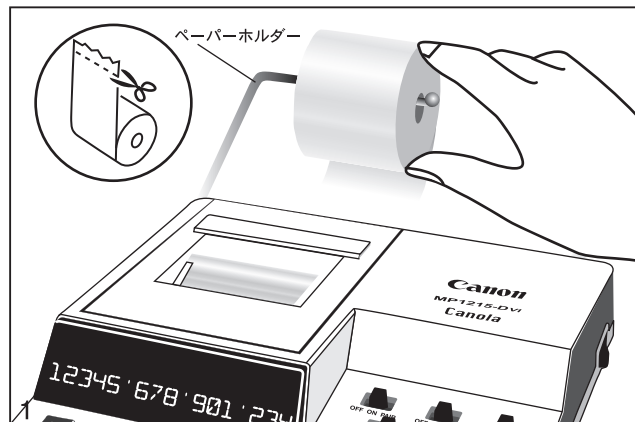
巾 : 13mm

長さ : 6m



4. ロールペーパーの装填方法

1. 本体右側にある電源スイッチを入れます。ペーパーホルダーを後方へ倒し、ロールペーパーを下から引き出せるようにして装填します。このときロールペーパーの先端はできるだけまっすぐに切ってください。ペーパーの先端がきちんとされてないと、紙送りができなったり、紙詰まりの原因になることがあります。(図1)
2. ロールペーパーの先端を挿入口へ入れ、先端が突きあたるまで深くしっかりと差し込みます。(図2)
自動的に紙送りされ、印字ができる状態となります。



* ロールペーパーを抜き出したいときは、ロールペーパーをロール側で切り(図3), **FEED** キーを押してロールペーパーを送り出してください。(図4)

また、ロールペーパーは直接手で引き出すこともできますが、ロール側へ引き戻すことはできません。無理に引き戻しますと故障の原因となることがありますのでご注意ください。

使用ロールペーパーについて

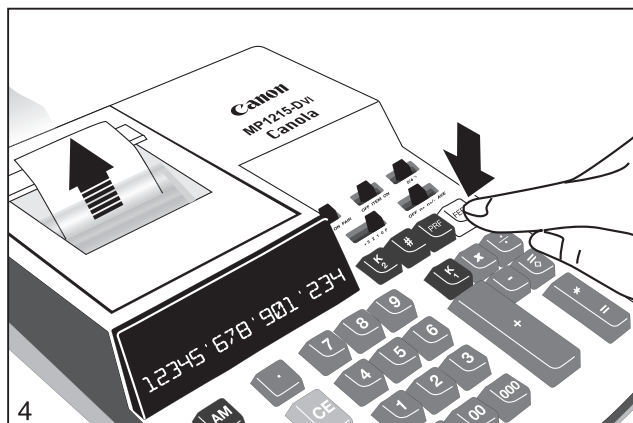
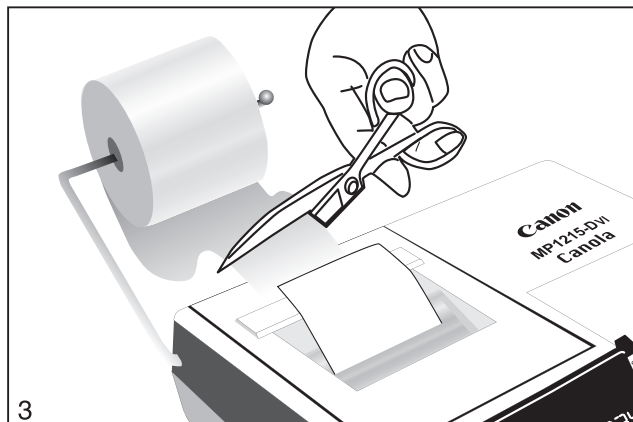
当社販売店では、キャノラ MP1215-DVI用のロールペーパーとして、Canon Roll Paper MP-57を併せて販売しております。お買上げの販売店にて本品をご指定の上お求めください。

なお、他のロールペーパーを使う場合は次の規格のものをお使いください。

規格外のものは、使用出来ませんのでご注意ください。

規格) 巾 : 57~58mm

巻径 : 86mm以下



2. 浮動小数点方式 (F)

小数点スイッチを“F”にセットしてください。小数点位置を指定しないで小数計算を行う方式です。

置 数

置数をしようとする数値が14桁までならばどこへでも小数点位置を取ることができます。

(例) 置 数 印 字



1.2345678901234

1.2345678901234 ×



1234567890123.4

1234567890123.4 ×

結 果

● 加減算の計算結果

加減算では、14桁までの小数を含む数値（計算結果）が上位桁から優先的に表示、印字され、それ以下の桁は切捨てとなります。

(例)

9876543211+9.8765432

=9876543220.8765432

切捨てられる

印 字

9 8 7 6 5 4 3 2 1 1 . +

9 . 8 7 6 5 4 3 2 +

9 8 7 6 5 4 3 2 2 0 . 8 7 6 5 *

● 乗除算の計算結果

乗除算では、14桁を越えると上位桁から優先的に表示、印字され、それ以下の桁は切捨てとなります。

(例)

8.7654×2.3456789012

=20.56081384057848

切捨てられる

印 字

8 . 7 6 5 4 ×

2 . 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 =

2 0 . 5 6 0 8 1 3 8 4 0 5 7 8 *

● “0”の省略

浮動小数点方式では小数を含む計算結果の最小桁に“0”がある場合、この“0”は省略されて表示、印字されます。

(例)

4.4×2.25=9.900

省略される

印 字

4 . 4 ×

2 . 2 5 =

9 . 9 *

3. アドモード (+)

小数点スイッチを“+”にセットしてください。小数点2桁までを自動的に表示，印字するモードになります。したがってドルの計算などではいちいち□キーを押す必要がありません（この指定方式は加減算のみ有効です）。

置 数


置数できる桁数は14桁までです。

(例)  置 数 印 字
1250 \square 12.50 +

結 果

計算結果は自動的に小数点2桁までを表示，印字します。計算結果の整数部が12桁を越えるときは上位桁から優先的に表示，印字されるので小数部が省略されるか1桁だけ表示，印字されます（下例参照）。

乗除算はできません。

(例)  置 数
98765432109876 \square 999999999999 \square \square \square
印 字
9 8 7 1 6 5 4 3 2 1 0 9 8 . 7 6 +
9 9 9 1 9 9 9 9 9 9 9 9 9 . 9 9 +
1 1 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 9 8 . 7 *

コーヒープレイク

〈ロールオーバー方式〉

本機はキー入力にロールオーバー方式を採用しています。ロールオーバー方式とは，キーを連続的に押した場合でも先に押されたキーが入力され，つづいて次のキーも入力される方式です。

したがって，先に押したキーを離してから次のキーを押す従来の方式とくらべて，より速いキー操作を行うことができます。

〈入力バッファレジスタ〉

本機は，速いキー操作にも対応できるように，入力バッファレジスタをそなえています。

入力バッファレジスタとは，計算機が計算を実行している最中に押された数値や命令を一時的に覚えていて，逐次計算機に入力することができるレジスタのことです。

2. 計算のしかた

計算の準備

1. 電源コードをコンセントに差し込み、電源スイッチをONにします。



電源スイッチをONにすると、計算機は自動的にクリアされますから計算の前に \square キーを押す必要はありません。

2. 表示を見たい場合にはディスプレイスイッチをONにします。
3. 小数点スイッチ、四捨五入スイッチ、アイテムカウントスイッチ、ペアモードスイッチを必要に応じてセットします。以下の計算例で、表記していないスイッチはOFFの状態です。

* キー、スイッチ類は確実に操作してください。

* 次の計算を始める前には \square キーを押してください。

1. 加減算


計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 加算 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \\ \hline 4 \\ (9) \end{array}$		1) $2 \square +$ 2) $3 \square +$ 3) $4 \square +$ 4) $\square =$	$2 \cdot 00 +$ $3 \cdot 00 +$ $4 \cdot 00 +$ $9 \cdot 00 *$
2) リピート加算 $\begin{array}{r} 2.5 \\ 3.2 \\ 3.2 \\ \hline 3.2 \\ (12.1) \end{array}$		1) $2.5 \square +$ 2) $3.2 \square +$ 3) $\square +$ 4) $\square +$ 5) $\square =$	$2 \cdot 50 +$ $3 \cdot 20 +$ $3 \cdot 20 +$ $3 \cdot 20 +$ $12 \cdot 10 *$

計算式	準備	操作手順	印字内容
3) 減算 $\begin{array}{r} 3 \\ -5 \\ \hline (-2) \end{array}$		1) 3 $\boxed{+}$ 2) 5 $\boxed{-}$ 3) $\boxed{=}$	3.00 + 5.00 - (赤印字) 2.00 - * (赤印字)
4) リピート加減算 $\begin{array}{r} 2.5 \\ 3.2 \\ 3.2 \\ 3.2 \\ -3.2 \\ \hline (8.9) \end{array}$		1) 2.5 $\boxed{+}$ 2) 3.2 $\boxed{+}$ 3) $\boxed{+}$ 4) $\boxed{+}$ 5) $\boxed{-}$ 6) (8.9) $\boxed{=}$	2.50 + 3.20 + 3.20 + 3.20 + 3.20 - (赤印字) 8.90 *
5) 中間計および合計の算出 $\begin{array}{r} 123 \\ 456 \\ \hline 789 \\ (1,368) \\ -321 \\ \hline (1,047) \end{array}$		1) 123 $\boxed{+}$ 2) 456 $\boxed{+}$ 3) 789 $\boxed{+}$ 4) $\boxed{=}$ 5) 321 $\boxed{-}$ 6) (1,047) $\boxed{=}$	123.00 + 456.00 + 789.00 + 1,368.00 ◇ 321.00 - (赤印字) 1,047.00 *

1. $\boxed{=}$ キーで求められた結果は、次に命令キー ($\boxed{+}$, $\boxed{-}$, $\boxed{\times}$, $\boxed{\div}$) を押すことによって、次の計算の被演算数として使用することができます。



2. 同じ数値を連続して加算または減算するとき、 $\boxed{+}$ キーまたは $\boxed{-}$ キーを押すことによって、改めて同じ数値を置数することなく、結果を求めることができます。



〈アイテムカウント機能〉


本機は、加減算のデータ数をカウントするアイテムカウンターを持っています。アイテムカウントスイッチ（）を切替えることにより、2種類のアイテムをカウントすることができます。


またアイテム表示機能により、計算途中で集計した伝票枚数やデータ数を確認することができます。






アイテムのカウント


アイテムカウントスイッチをn+にセットしたときは、, キーを押した回数をカウントします。






アイテムカウントスイッチをn+/-にセットしたときは、キーを押した回数をカウントし、キーを押した回数をカウントからマイナスします。誤った数値を入力しても、その数値の逆の符号を入力することで、誤入力を訂正することができます。



またキーをロックすると、アイテム数はメモリに自動累積されます。

(例)  (n+にセットした場合)

操 作	印 字
5 	5・+
8 	8・+
1 	1・+
	1・－ (赤印字)
アイテム数.....	0004
	13・*

 (n+/-にセットした場合)

操 作	印 字
5 	5・+
8 	8・+
1 	1・+
	1・－ (赤印字)
アイテム数.....	0002
	13・*

* アイテムスイッチがOFFの場合は、アイテム数の検出は行いませんが、結果を求める直前でn+に切替えることにより、カウントされているアイテムを印字することができます。(n+/-に切替えた場合にも、n+の場合と同じように, キーを押した回数を印字します。)

* アイテムは9999までカウントすることができます。9999までカウントし終った場合には、0001からカウントを始めます。

アイテムの印字

アイテムカウントスイッチがn+またはn+/-のときは、アイテムカウンターの内容を $\boxed{\ominus}$ または $\boxed{\otimes}$ キー（ $\boxed{\text{AM}}$ キーがロックされている場合には $\boxed{\text{S}}$ または $\boxed{\text{T}}$ キー）を押すことにより、印字用紙の左端に4桁で印字します。




アイテムの表示

アイテムカウンターの内容は $\boxed{+}$ 、 $\boxed{-}$ 、 $\boxed{\text{CE}}$ キーを押し続けている間だけ、表示部の6桁めから9桁めの4桁に表示させることができます。（ディスプレイスイッチがONの場合）

アイテムカウンターのクリア


以下の操作を行なうとアイテムカウントは自動的にクリア（消去）されます。

- ① $\boxed{\text{C}}$ キーを押したとき
- ② $\boxed{\times}$ キー、または $\boxed{\div}$ キーを押したとき
- ③ $\boxed{\otimes}$ キーを押して数字を入力したとき
- ④ $\boxed{\text{AM}}$ キーがロックされている場合には、 $\boxed{\text{T}}$ キーを押したとき


計 算 式		準 備	操 作 手 順		印 字 内 容		
伝票集計		  	1)	1860 \oplus	0004	1 1860 ·	+
伝票No.			2)	1420 \oplus		1 1420 ·	+
1	1,860		3)	2380 \oplus		2 1380 ·	+
2	1,420		4)	22 \square 00 \oplus		2 1200 ·	+
3	2,380		5)	\boxtimes			
4	2,200				7 1860 ·	¥	
(小計)	(4) (7,860)						
5	4,552		6)	4552 \oplus	4 1552 ·	+	
6	3,660		7)	3660 \oplus	3 1660 ·	+	
7	7,432		8)	7432 \oplus	7 1432 ·	+	
8	8,500	9)	85 \square 00 \oplus	8 1500 ·	+		
(小計)	(4) (24,144)	10)	\boxtimes	0004			
(合計)	(8) (32,004)				24 1144 ·	¥	
		11)	\boxplus	0008			
					32 1004 ·	T	




\boxplus キーをロックすると、演算回数は演算結果と同様、メモリに自動累積され、 \boxplus キーで総演算回数と演算結果が同時に印字されます。

〈アベレージ計算機能〉


本機は、平均値を求める機能を持っており、を押し、演算結果を求めた時、平均値が算出されます。ただし、加算のみに有効で減算時には正しい平均値は求められません。

加算データの訂正








誤って加算した場合には、その直後にキーを押すことにより、加算データを訂正することができます。

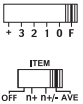
(例) 1230
4560.....誤入力
.....訂正

アベレージ計算の印字

アベレージ計算を印字するには、プリントモードスイッチをプリントモードに、アイテムカウントスイッチをAVEにセットします。アイテム数がカウントされ、キーを押したときにアイテム数及びそれまでに計算された加算の平均値が#マークとともに印字されます。

* アイテム数が0の場合にアベレージ計算を行いますと、正しい平均値は求められません。

(例)	操作	印字
	 + 3 2 1 0 F	
	 ITEM OFF ON #+ #+/# AVE	
	 PRINT OFF ON PAIR	
	456 	456・+
	123 	123・  (赤印字)
		0000
		333・*





計算式	準備	操作手順	印字内容
1) アベレージ計算		1) 1230 <input type="button" value="+"/>	1 : 230 · +
1,230		2) 4560 <input type="button" value="+"/>	4 : 560 · +
4,560		3) 7890 <input type="button" value="+"/>	7 : 890 · +
7,890		4) 1470 <input type="button" value="+"/>	1 : 470 · +
1,470		5) 2580 <input type="button" value="+"/>	2 : 580 · +
2,580		6) <input type="button" value="Σ"/>	0005
小計(5) (17,730)		7) 3690 <input type="button" value="+"/>	17 : 730 · ◇
3,690		8) 1590 <input type="button" value="+"/>	3 : 690 · +
1,590		9) 7530 <input type="button" value="+"/>	1 : 590 · +
7,530		10) 9510 <input type="button" value="+"/>	7 : 530 · +
9,510		11) 3570 <input type="button" value="+"/>	9 : 510 · +
3,570		12) <input type="button" value="Σ"/>	3 : 570 · +
合計(10) (43,620)		0010	
平均値 (4,362)		43 : 620 · * 4 : 362 · #	


〈ゼロプルーフ機能〉

ゼロプルーフ機能は伝票集計結果を検算するとき便利な機能です。


この機能を使用すると、アイテム数（伝票枚数）と合計を同時に照合することができますので、もし検算で差異が出た場合は容易に原因の推定をすることができます。
















ゼロプルーフの方法は、

- ①  スイッチをn+またはn+/-にセットします。
- ② 最初に照合すべきアイテム数（伝票枚数）と合計を  キーで入力します。
- ③ 次に検算を通常通り行います。
- ④ ひとつおりの検算が終了したら  キー、または  キーを押します。このとき伝票集計結果と検算のアイテム数お

よび合計が一致した場合はアイテムカウント、合計ともに0を印字します。また伝票集計結果と検算に差異があった場合はその差額を印字し、電子ロックされ、オーバーフローサインが表示されます。差異の原因がわかり、容易に修正可能な場合は  キーで電子ロックを解除し、差異分を加減することにより検算を完了することができます。

- ⑤ 照合すべきアイテム数を入力したときおよび検算中のアイテム表示は10000の補数で表示されます。

 がITEMの場合、ステップ2) の時ディスプレイは0008、ステップ3) の時は9993になります。ステップ4) では9994、ステップ5) では9995～ステップ9) では9999、ステップ10) では0000になります。

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 伝票集計検算		1) 8 	0008 P (赤印字)
伝票枚数 8		2) 32004 	32 1 004 · P (赤印字)
合計 32,004		3) 1860 	1 1 860 · +
(内訳) 1,860		4) 1420 	1 1 420 · +
1,420		5) 2380 	2 1 380 · +
2,380		6) 22  	2 1 200 · +
2,200		7) 4552 	4 1 552 · +
4,552		8) 3660 	3 1 660 · +
3,660		9) 7432 	7 1 432 · +
7,432		10) 85  	8 1 500 · +
8,500		11) 	0000
32,004			0 · ◇

1. アイテム数（伝票枚数）と合計の入力の順序は最初にアイテム数（伝票枚数）、次に合計を入力します。

2. アイテム数（伝票枚数）と合計はP記号といっしょに赤色で印字されます。

計算式	準備	操作手順	印字内容
2) 伝票集計検算			
伝票枚数5		1) 5	0005 P (赤印字)
合計 300		2) 3	300 · P (赤印字)
(内訳) 100		3) 1	100 · +
100		4)	100 · +
50		5) 50	50 · +
25		6)	9998
<u>25</u>		7)	50 · - (赤印字)
300		8) 25	25 · +
		9)	25 · +
		10)	0000
			0 ·


1. はじめに入力したアイテム数および合計と検算結果が違っている場合は、キーを押した時点でその差額を印字し、電子ロックされ、オーバーフローサインが表示されます。ステップ 6)

なおこの場合はキーで電子ロックを解除することにより検算を続行することができます。ステップ 7)

2. 検算のアイテム数がマイナスする場合は10000の補数で印字されます。

上例のステップ 6)においてはアイテム数が2回マイナスしているため9998となります。

〈ペアモード計算〉

(伝票枚数；金額)，(手形枚数；金額)，(台数；金額)，(コードNo.；金額)のように対応する2種類のデータ(ペアデータ)のそれぞれの集計計算を同時に行うときはペアモードスイッチを  にセットします。ペアモードのときは $\boxed{+}$ キーで奇数回目に入力したデータは第1レジスタに、また $\boxed{+}$ キーで偶数回目に入力したデータは第2レジスタにそれぞれプラスされます。

第1レジスタに累積された結果(奇数回目に入力したデータの合計)および第2レジスタに累積された結果(偶数回目に入力したデータの合計)は $\boxed{=}$ キーを押すことによって同時に印字することができます。

さらにこのとき \boxed{AM} キーをロックしておけば、第1レジスタの結果は第1メモリに、第2レジスタの結果は第2メモリへそれぞれ自動的に累積されます。

第1メモリに累積された結果(奇数回目に入力したデータの合計)および第2メモリに累積された結果(偶数回目に入力したデータの合計)は \boxed{T} キーあるいは $\boxed{=}$ キーを押すことによって同時に印字することができます。

また、ペアモードのとき、 $\boxed{-}$ キーによって、 $\boxed{+}$ キーの誤って入力したデータを直後に訂正するときに使用します。

すなわち、奇数回目に入力したデータのあとに $\boxed{-}$ キーを押せば、そのデータを第1レジスタからマイナスし、偶数回目に入力したデータのあとに $\boxed{-}$ キーを押せば、そのデータを第2レジスタからマイナスします。

- (例) (A) $5+7+9=21$
(B) $6+8+10=24$



操 作	第1レジスタ	第2レジスタ	第1メモリ	第2メモリ	印 字
1) $\boxed{5+}$	5.	0	0	0	5・+
2) $\boxed{6+}$	5.	6.	0	0	6・+(赤印字)
3) $\boxed{7+}$	12.	6.	0	0	7・+
4) $\boxed{8+}$	12.	14.	0	0	8・+(赤印字)
5) $\boxed{=}$	0.	0	12.	14.	12・ $\frac{M}{=}$ 14・ $\frac{M}{=}$ (赤印字)
6) (誤入力) $\boxed{8+}$	8.	0	12.	14.	8・+
7) (誤訂正) $\boxed{-}$	0	0	12.	14.	8・-
8) $\boxed{9+}$	9.	0	12.	14.	9・+
9) $\boxed{10+}$	9.	10.	12.	14.	10・+(赤印字)
10) $\boxed{=}$	0	0	21.	24.	9・ $\frac{M}{=}$ 10・ $\frac{M}{=}$ (赤印字)
11) \boxed{T}	0	0	0	0	21・T 24・T(赤印字)




※ペアモードのときは乗除算はできません。

※ペアモードのとき、入力したデータとその小計・合計は、奇数回目のものは黒で印字し、偶数回目のものは赤で印字します。

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) ペアデータのそれぞれの小計および合計		1) 23 $\boxed{+}$	23・+
数量 金額		2) 23 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	21300・+ (赤印字)
23 2,300		3) 34 $\boxed{+}$	34・+
34 3,400		4) 34 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	31400・+ (赤印字)
56 5,600		5) 56 $\boxed{+}$	56・+
小計(113) (11,300)		6) 56 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	51600・+ (赤印字)
41 4,100		7) $\boxed{\text{M}}$	0003
52 5,200			113・ M
63 6,300			0003 (赤印字)
小計(156) (15,600)			111300・ M (赤印字)
合計(269) (26,900)		8) 41 $\boxed{+}$	41・+
		9) 41 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	41100・+ (赤印字)
		10) 52 $\boxed{+}$	52・+
		11) 52 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	51200・+ (赤印字)
	12) 63 $\boxed{+}$	63・+	
	13) 63 $\boxed{00}$ $\boxed{+}$	61300・+ (赤印字)	
	14) $\boxed{\text{M}}$	0003	
		156・ M	
		0003 (赤印字)	
		151600・ M (赤印字)	




		15)	T	0006	269・T
				0003	(赤印字)
					26,900・T (赤印字)

ペアモードのときのアイテムカウントは、奇数回目に入力したデータの数と偶数回目に入力したデータの数をそれぞれカウントします。

計算式		準備	操作手順	印字内容
2) ペアデータの合計およびダブルプルーフ		  	1) 12+	12・+
数量	金額		2) 300+	300・+ (赤印字)
1) 12	300		3) 45+	45・+
2) 45	600		4) 600+	600・+ (赤印字)
3) 7	800		5) 7+	7・+
4) 9	1,000		6) 800+	800・+ (赤印字)
(4) 計(73)	(2,700)		7) 9+	9・+
			8) 1000+	1,000・+ (赤印字)
			9) *	0004 73・*
				0004 2,700・* (赤印字)




		10)	PRF	0004	P
					73 · P (赤印字)
				0004	P (赤印字)
					2,700 · P (赤印字)
		11)	9+		9 · +
		12)	100+		1,000 · + (赤印字)
		13)	7+		7 · +
		14)	800+		800 · + (赤印字)
		15)	45+		45 · +
		16)	600+		600 · + (赤印字)
		17)	12+		12 · +
		18)	300+		300 · + (赤印字)
		19)	≠	0000	0 · *
				0000	(赤印字)
					0 · * (赤印字)

2. 乗算

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 単純乗算 $123 \times 456 = (56,088)$		1) $123 \times$ 2) 456 [=]	$123 \cdot \times$ $456 \cdot =$ $56 \text{ } 088 \cdot 000 *$
2) 負数を含む乗算 $-2 \times 3 = (-6)$		1) 2 [-] 2) \times 3) 3 [=]	$2 \cdot 000 \text{ - (赤印字)}$ $2 \cdot 000 \text{ - } \times \text{ (赤印字)}$ $3 \cdot =$ $6 \cdot 000 \text{ - } * \text{ (赤印字)}$
3) 連乗算 $7894.5632 \times 654.3214$ $\times 23.8521 \times 8.5236$ $= (1,050,192,499.90)$		1) $7894.5632 \times$ 2) $654.3214 \times$ 3) $23.8521 \times$ 4) 8.5236 [=]	$7 \text{ } 894 \cdot 5632 \times$ $654 \cdot 3214 \times$ $23 \cdot 8521 \times$ $8 \cdot 5236 =$ $1 \text{ } 050 \text{ } 192 \text{ } 499 \cdot 990 *$



\times キーを押すときに間違えて \div キーを押したときは、そのまま続けて \times キーを押し直せば正常に乗算を行うことができます。

3. 除算

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 単純除算 $456 \div 123 = (3.707)$		1) $456 \div$ 2) $123 \times$	$456 \cdot \div$ $123 \cdot =$ $3 \cdot 707 *$
2) 負数を含む除算 $-365 \div 6 = (-60.833)$		1) $365 -$ 2) \div 3) $6 \times$	$365 \cdot 000 -$ (赤印字) $365 \cdot 000 - \div$ (赤印字) $6 \cdot =$ $60 \cdot 833 - *$ (赤印字)
3) 連除算 $123,456,789 \div 456.123$ $\div 789.456$ $= (342.851)$		1) $123456789 \div$ 2) $456.123 \div$ 3) $789.456 \times$	$123 \cdot 456 \cdot 789 \cdot \div$ $456 \cdot 123 \div$ $789 \cdot 456 =$ $342 \cdot 851 *$









\div キーを押すときに間違えて \times キーを押したときは、そのまま続けて \div キーを押せば正常に除算を行うことができます。


4. 混合算







計算式	準備	操作手順	印字内容
$\frac{(12.3 - 2.5) \times 1.32}{0.45} + 2.04$ $= (30.79)$	  <small>54 7</small>	1) 12.3 $\boxed{+}$ 2) 2.5 $\boxed{-}$ 3) $\boxed{=}$ 4) $\boxed{\times}$ 5) 1.32 $\boxed{\div}$ 6) .45 $\boxed{=}$ 7) $\boxed{+}$ 8) 2.04 $\boxed{+}$ 9) $\boxed{=}$	12.30 + 2.50 - (赤印字) 9.80 \diamond 9.80 \times 1.32 \div 0.45 = 28.75 \diamond 28.75 + 2.04 + 30.79 *

小数点以下の数値のみを置数するときには $\boxed{\cdot}$ キーを押すだけで、その前に $\boxed{0}$ キーを押す必要はありません。

5. 定数乗除算

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 定数乗算 (被乗数が定数) $300 \times 2,145 = (643,500)$ $300 \times 4,950.6 = (1,485,180)$ $300 \times 3,748.38 = (1,124,514)$	   	1) $300 \times$ 2) $2145 \times$ 3) $4950.6 \times$ 4) $3748.38 \times$	$300 \cdot \times$ $2,145 \cdot =$ $643,500 \cdot 00 *$ $4,950 \cdot 6 K$ $1,485,180 \cdot 00 *$ $3,748 \cdot 38 K$ $1,124,514 \cdot 00 *$
2) 定数除算 (除数が定数) $31,750 \div 500 = (63.5)$ $54,236 \div 500 = (108.47)$ $876.12 \div 500 = (1.75)$	   	1) $31750 \div$ 2) $500 \times$ 3) $54236 \times$ 4) $876.12 \times$	$31,750 \cdot \div$ $500 \cdot =$ $63 \cdot 50 *$ $54,236 \cdot K$ $108 \cdot 47 *$ $876 \cdot 12 K$ $1 \cdot 75 *$

 キーをロックすると乗算では被乗数が、除算では除数が定数になります。


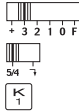
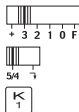
計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 定数乗算 (乗数が定数) $123 \times 456 \times \underline{500}$ $= (28,044,000)$ $78,900 \div 357 \times \underline{500}$ $= (110,504.20)$	  	$123 \times$ $456 \times$ $500 \times$ $78900 \div$ $357 \times$	$123 \cdot \times$ $456 \cdot \times$ $500 \cdot =$ $2810441000 \cdot 00 *$ $781900 \cdot \div$ $357 \cdot \times$ $500 \cdot =$ $1101504 \cdot 20 *$
2) 定数除算 (除数が定数) $147,000 \div 258 \div \underline{300}$ $= (1.90)$ $369 \times 753 \div \underline{300}$ $= (926.19)$	  	$*(C)$ $147000 \div$ $258 \div$ $300 \times$ $369 \times$ $753 \times$	$1471000 \cdot \div$ $258 \cdot \div$ $300 \cdot =$ $1 \cdot 90 *$ $369 \cdot \times$ $753 \cdot \div$ $300 \cdot =$ $926 \cdot 19 *$

1. $\frac{K}{\Sigma}$ キーをロックすると乗算では乗数が、除算では除数が定数になります。
2. $\frac{K}{\Sigma}$ キーをロックした場合には連乗除算の途中結果に定数乗除算を実行することができます。

($\frac{K}{\div}$ キーでは連乗除算の途中結果に定数乗除算を実行することはできません。)

*前回の計算で定数が入力されている場合、 (C) キーを押して定数をクリアします。

6. 自乗・累乗・逆数計算

計算式	準備	操作手順	印字内容
1) 自乗計算 $3.14159^2=(9.870)$ (小数点以下第4位で四捨五入)		1) $3.14159 \times$ 2) \square	$3 \cdot 14159 \times$ $3 \cdot 14159 =$ $9 \cdot 870 *$
2) 累乗計算 $3^4=(81)$		1) $3 \times$ 2) \square (2乗) 3) \square (3乗) 4) \square (4乗)	$3 \cdot \times$ $3 \cdot =$ $9 \cdot 000 \diamond$ $9 \cdot 000K$ $27 \cdot 000 \diamond$ $27 \cdot 000K$ $81 \cdot 000 \diamond$
3) 逆数計算 $\frac{1}{2^2}=(0.250)$		1) $1 \div$ 2) \square 3) \square	$1 \cdot \div$ $2 \cdot =$ $0 \cdot 500 \diamond$ $0 \cdot 500K$ $0 \cdot 250 \diamond$


- 累乗計算では \square キーをロックして \square キーを $(n-1)$ 回押すことにより n 乗が得られます。
- 逆数計算では \square キーをロックして \square キーを n 回押すことにより $\frac{1}{a^n}$ が得られます。

7. メモリを使った計算

AM キーをロックしておく、**MC** キーを押すことによって置数した数値または算出した演算結果をメモリへ自動的に累

積します。

ただし、**M+** キーではメモリへの累積は行いません。

計算式	準備	操作手順		印字内容
1) 積和差計算 243×0.86=(208.98) 576×0.78=(449.28) <u>+387×0.88=(340.56)</u> (998.82)		1)	243 ×	243 · ×
		2)	.86 MC	0 · 86 = 208 · 98 M
		3)	576 ×	576 · ×
		4)	.78 MC	0 · 78 = 449 · 28 M
		5)	387 ×	387 · ×
		6)	.88 MC	0 · 88 = 340 · 56 M
		7)	T	998 · 82 T



- メモリに数値が入った場合は、メモリサイン (M) が表示されます。
- メモリの中間計を呼び出すときは **M+** キーを、メモリの合計を呼び出すときには **T** キーを押します。


- T** キーを押すと、メモリの合計を印字すると同時に、メモリをクリアします。
M+ キーではメモリのクリアはしません。
T キーを押してメモリの合計を印字した場合は自動的に一行空送りします。

8. ノンアドキーを使った計算






日付、コードなどの数字（小数点も含む）の置数後に $\boxed{\#}$ キ

ーを押すことにより、 $\#$ マークとともに置数した数字および小数点を印字用紙の左端から印字することができます。






計算式				準備	操作手順	印字内容																												
1) 純売上げ集計				 	1) 351 $\boxed{\#}$	#351																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>品名 コード</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>売上高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No.351</td> <td>123</td> <td>98</td> <td>(12,054)</td> </tr> <tr> <td>No.426</td> <td>36</td> <td>103</td> <td>(3,708)</td> </tr> <tr> <td>No.458</td> <td>85</td> <td>101</td> <td>(8,585)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(24,347)売上合計</td> </tr> <tr> <td>No.458</td> <td>17</td> <td>101</td> <td>(-1,717)返品額</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(22,630)</td> </tr> </tbody> </table>					品名 コード	数量	単価	売上高	No.351	123	98	(12,054)	No.426	36	103	(3,708)	No.458	85	101	(8,585)				(24,347)売上合計	No.458	17	101	(-1,717)返品額				(22,630)	2) 123 $\boxed{\times}$	123 · \times
					品名 コード	数量	単価	売上高																										
					No.351	123	98	(12,054)																										
					No.426	36	103	(3,708)																										
					No.458	85	101	(8,585)																										
			(24,347)売上合計																															
No.458	17	101	(-1,717)返品額																															
			(22,630)																															
3) 98 $\boxed{*}$	98 · =																																	
	12 054 · \yen																																	
4) 426 $\boxed{\#}$	#426																																	
5) 36 $\boxed{\times}$	36 · \times																																	
6) 103 $\boxed{*}$	103 · =																																	
	3 708 · \yen																																	
7) 458 $\boxed{\#}$	#458																																	
8) 85 $\boxed{\times}$	85 · \times																																	
9) 101 $\boxed{*}$	101 · =																																	
	8 585 · \yen																																	
10) \boxed{S}	24 347 · S																																	
11) 458 $\boxed{\#}$	#458																																	
12) 17 $\boxed{-}$	17 · $-$ (赤印字)																																	
13) $\boxed{\times}$	17 · $- \times$ (赤印字)																																	
14) 101 $\boxed{*}$	101 · =																																	
	1 717 · $- \yen$ (赤印字)																																	
15) \boxed{T}	22 630 · T																																	

計算式	準備	操作手順	印字内容
2) 演算途中結果の算出 123×456=(56,088) ×789=(44,253,432)	  	1) 123 \times 2) 456 \times 3) # 4) 789 \times 5) #	123・× 456・× #56088・ 789・= 4412531432・000* #44253432・000



- 演算の途中結果を知りたいときは、命令キーのあとで $\#$ キーを押せば求められます。
 $\#$ キーを押すと、演算途中結果をロールペーパーの左端に印字します。
- \times キーのあとで $\#$ キーを押すと、結果をもう一度ロールペーパーの左端に印字することができます。
- $\#$ キーによって印字用紙の左端に印字される数値は3桁位取りマークは印字されません。













計算式	準備	操作手順	印字内容
3) 小数点の印字 試験の点数 人数 40以下 5) 50 4) 60 7) 70 10) 80以上 6	    	40□□□□□# 50□□□□□# 60□□□□□□□# 70□□□□□□□□□# 80□□□□□□□#	#40..... #50..... #60..... #70..... #80.....

$\#$ キーによる小数点および数字の印字は1行に15桁以内です。
人数は小数点で表されます。

計 算 式	準 備	操 作 手 順	印 字 内 容
4) 日付の印字		1) 2008.6.8[#]	#2008.6.8
2008年6月8日 1,860		2) 1860[+]	1 1 860 · +
1,420		3) 1420[+]	1 1 420 · +
2008年6月9日 2,380		4) 2008.6.9[#]	#2008.6.9
2,200		5) 2380[+]	2 1 380 · +
(小計) (7,860)		6) 22[00][+]	2 1 200 · +
2008年6月10日 4,552		7) 	7 1 860 · ㊄
3,660		8) 2008.6.10[#]	#2008.6.10
2008年6月11日 7,432		9) 4552[+]	4 1 552 · +
8,500		10) 3660[+]	3 1 660 · +
(小計) (24,144)		11) 2008.6.11[#]	#2008.6.11
(合計) (32,004)		12) 7432[+]	7 1 432 · +
		13) 85[00][+]	8 1 500 · +
		14) 	24 1 144 · ㊄
		15) 	32 1 004 · T

9. 応用計算







計算式			準備	操作手順	印字内容															
1) 按分比例計算 予算1,548,000円を各店の販売実績に応じて配分します。			  AM K	1) 147 \oplus 2) 258 \oplus 3) 369 \oplus 4) $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 5) 1548 \div 6) T 7) \times 8) 147 $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 9) 258 $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 10) 369 $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 11) T	147・ \oplus 258・ \oplus 369・ \oplus 774・ $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 1・548・ \div 774・T 774・ \times 147・ $=$ 294・ $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 258・K 516・ $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 369・K 738・ $\frac{\text{M}}{\text{N}}$ 1・548・T															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>支店</th> <th>販売実績 (百万円)</th> <th>配分予算 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>147</td> <td>(294)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>258</td> <td>(516)</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>369</td> <td>(738)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>(774)</td> <td>1,548</td> </tr> </tbody> </table>			支店	販売実績 (百万円)	配分予算 (千円)	A	147	(294)	B	258	(516)	C	369	(738)	計	(774)	1,548			
支店	販売実績 (百万円)	配分予算 (千円)																		
A	147	(294)																		
B	258	(516)																		
C	369	(738)																		
計	(774)	1,548																		
計算式 各支店配分予算 $= \frac{\text{予算}}{\text{売上高合計}} \times \text{各支店売上高}$ $= \frac{1,548}{774} \times \text{各支店売上高}$																				

計 算 式	準 備	操 作 手 順	印 字 内 容
2) 複利計算 元金1,000,000円 年利率7.5%のときの6年後の 元利合計を求める。 $1,000,000 \times (1+0.075)^6$ $= 1,543,301.54$	  	1) 1.075  2) 1    3)  4)  5)  6)  7) 	1.075 × 1,000,000. = 1,075,000.00 * 1,075,000.00K 1,155,625.00 * 1,155,625.00K 1,242,296.88 * 1,242,296.88K 1,335,469.15 * 1,335,469.15K 1,435,629.34 * 1,435,629.34K 1,543,301.54 *

MP1215-DVIの仕様

型式：キャノラMP1215-DVI
キー：10キー式
レジスター：演算用5本、メモリー用2本、入力バッファ1本（置数キー15キー分またはファンクションキー8キー分）
演算容量：被演算数、演算数、結果数ともに14桁
印字桁数：数字14桁、符号および記号各2桁、小数点1桁、3桁毎位取りマーク（13桁以上の場合、下位のマーク省略）
印字速度：4.5行/秒（印字中の置数および命令キーによる入力可能）
印字：赤黒2色印字 使用ロールペーパー；幅57～58mm 巻径：86mm以下
使用インクリボン；EP102/M310型
表示方式：蛍光多桁表示管
表示桁数：14桁+符号1桁
小数点方式：上位桁優先
置数→加減算は指定、乗除算においては浮動、連乗除算の演算途中→浮動
結果→指定小数点0, 1, 2, 3, Fの各桁および+（アドモード）に指定可能
負数：置数、結果とも真数を一符号とともに赤印字
演算結果：乗除算の場合指定桁で四捨五入、切り捨て可能
演算内容：加減乗除算、連乗連除算、定数乗除算、積和差商和差計算、べき計算、逆数計算、アドモード計算、リピート計算、アベレ

ージ計算、ゼロプルーフ計算、ペアーモード計算、各種混合計算

- 特殊機能：
- a) 安全機能
 1. オーバーフロー時の電子ロック
 2. 電子式2重打警告装置（電子ロック）
 3. キー入力バッファ
 4. キー入力のロールオーバー方式
 - b) 自動計算機能
 1.   キーによる定数乗除算
 2.  キーによるメモリへの自動累積
 3.  スイッチによるアイテムカウント機能
 4.  スイッチによるペアーモード計算
 - c) 表示機能
 1. アイテム機能
 2. メモリ表示
 3. オーバーフロー表示
 - d) その他付帯機能
 1. ゼロプルーフ機能
 2.  キーによる日付、番号などの数値および演算途中結果の印字
 3. ロールペーパー装填時の自動紙送り

使用素子：MOS-LSI
電源：90V-110V 最大0.15A
使用温度範囲：0°C～40°C
寸法：（幅）215 ×（奥行）280.5 ×（高）70mm
重量：1.923kg

※改善のため予告なく、仕様を変更することがあります。

MEMO

MEMO

修理お問い合わせ専用窓口

パーソナル機器修理受付センター
(全国共通番号) 050-555-99088

[受付時間] 9:00 ~ 18:00

(日曜、祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

製品取扱い方法ご相談窓口

キヤノンお客様相談センター
(全国共通番号) 050-555-90025

[受付時間] 平日 9:00 ~ 20:00

土・日・祝日 10:00 ~ 17:00

(1月1日~1月3日は休ませていただきます)

※上記番号をご利用頂けない場合は、043-211-9632 をご利用ください。

※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。

※上記記載内容は、都合により予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

2008年8月1日現在

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

保証規定

1. 使用説明書、本体注意ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で保証期間中に、万一故障した場合は、本保証書の本製品に添付のうえ、弊社または表記の販売店までご持参あるいはお送りいただければ、無料で修理または機械交換を行います。なお、この場合の交通費、送料および諸掛かりはおお客様のご負担となりますので、予めご了承願います。
 2. 保証期間中でも次の場合は有料修理となります。
 - (1) 取扱上の不注意、誤用による故障および損傷（表示画面のガラス割れ等）
 - (2) 不適切な移動・落下等による故障および損傷
 - (3) 弊社または表記の販売店以外での修理、改造による故障および損傷
 - (4) キヤノン製以外の消耗品や部品の使用に起因して生じた本体の損傷、故障および障害
 - (5) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (6) 本保証書の提示がない場合
 - (7) 本保証書にお買上年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き換えられた場合
 - (8) 接続している他の機器に起因して故障が生じた場合
 3. お客様に迅速かつ確実なサービスをお届けするため、同一機種または弊社規定に従い同等程度の仕様製品との機械交換方式を採用しています。なお、故障状況により部品交換方式を採用させていただく場合がございますので、予めご了承願います。
 4. 消耗品類は、本保証書による保証の対象とはなりません。
 5. 本製品の故障または本製品の使用によって生じた直接、間接の損害については、弊社ではその責任を負いかねますので、ご了承願います。
 6. 転居、譲り受け、贈答等の場合で表記の販売店に修理を依頼できない場合には、弊社にお問合せください。
 7. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
 8. 本保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。
- ※ 本保証書は、以上の保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これにより弊社及び弊社以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※ 保証期間経過後は弊社規定の修理・交換料金を申し受けます。
- ※ 保証内容や修理のお問い合わせは、パーソナル機器受付センターまでお願い致します。